

防除時期	対象病害虫	薬剤名	倍率	薬量 (100% 当り)	収穫前日数	回数	10aあたりの 散布量目安	摘要	RACコード 分類
特別 発芽前	カイガラムシ類	石灰硫黄合剤	7~10倍	10 L	発芽前	-	150% L	カイガラムシ 対策として、2 剤の内どちら か1剤を散布 する	I:UN
	ハダニ類		20~40倍	2.5 ~ 5 L					F:M02
	カイガラムシ類	マシン油乳剤95	12~14倍	7142 ~ 8333 cc	(発芽前)	-	-		I:未 F:NC
1 5月上旬 5月中旬	アブラムシ類 ケムシ類 オウトウショウジョウバエ	ダントツ水溶剤	2000~ 4000倍	25 ~ 50 g	45日前まで	3回以内	200% L	ケムシの発生 が見られる場 合、発生初期 にいずれかの 剤を用いて防 除を実施す る。	I:4A
	ドクガ マイマイガ	サイアノックス水和剤	1000倍	100 g	30日前まで	2回以内	200% L		I:1B
特別 5~6月	斑点病 灰色かび病	ストロビードライフロアブル	3000倍	33 g	14日前まで	2回以内	200% L		F:11
2 収穫 期間 中	オウトウショウジョウバエ ヒロヘリアオイラガ	スカウトフロアブル(劇)	3000倍	33 cc	前日まで	2回以内	200% L	雨が数日続い た後、気温が 上がるとオウ トウショウジ ョウバエが発 生しやすい条 件となるので 、記載の剤を 用いて防除を 実施する。	I:3A
	アザミウマ類 オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類 ブルーベリータマバエ	ディアナWDG	10000倍	10 cc	前日まで	2回以内	200% L		I:5
	オウトウショウジョウバエ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4000倍	25 g	前日まで	1回以内	200% L		I:4A
	オウトウショウジョウバエ イラガ類	コテツフロアブル(劇)	2000倍	50 cc	前日まで	3回以内	200% L		I:13
	アブラムシ類	エクシレルSE	2500倍	40 cc	前日まで	3回以内	200% L		I:28
	オウトウショウジョウバエ ケムシ類		5000倍	20 cc					
特別 8~9月	ケムシ類	フェニックスフロアブル	4000倍	25 g	前日まで	2回以内	200% L		I:28
特別 発生が 認めら れた場 合	コガネムシ類幼虫	ダイアジノン粒剤5	-	-	14日前まで	2回以内	6kg	株元土壌混和	I:1B
除草 剤	雑草生 育期:草 丈30cm 以下	1年生雑草 多年生雑草	バスタ液剤	1年生雑草300~ 500cc/10a 多年生雑草500~ 1000cc/10a	収穫前日ま で(雑草生 育期:草丈 30cm以下)	3回以内	100~ 150% L		H:10

ラベルを必ず確認し、登録内容(倍率、収穫前日数、回数など)を遵守してください!また器具の洗浄は十分に行ってください。

防除暦にない薬剤を使う場合は必ず指導員に相談してください。

### 【 ショウジョウバエ対策 】

- 過熟果の発生・もぎのこしをつくらない  
早期収穫を心がけ、過熟果の発生を最小限にする。  
また、もぎ残しはショウジョウバエの発生源となる恐れがあるので、出来る限り完全収穫!
- 圃場を清潔にしショウジョウバエの発生源や住処をつくらない  
近隣に残渣や生ごみ等が放置してあると、ブルーベリーに防除を実施してもショウジョウバエの発生源となり飛んできます。  
そのような場合はそれらを土中深くに埋めてしまうなど対策を講じましょう。
- 収穫期間中のローテーション防除  
上記の手段にて出来る限り発生を未然に防ぐとともに、早めのローテーション防除を実施する。

### 【 有機物マルチについて 】

土を膨軟にするため、また根の保護のため、バーク等有機質マルチを行う。毎年行うのが望ましいが、大変であれば少なくとも2年に1回は行う。

### 【 住宅地における農薬使用について 】

農薬使用者は住宅地において農薬の飛散防止措置を講ずるよう努めなければならないと規定されています。これを受けて、公共施設・住宅地に近接する場所における病害虫の防除については極力、農薬散布以外の方法をとること。ただし、やむを得ず農薬を使用しなければならない場合は注意事項(散布に関する事前の周囲への周知、飛散防止のための天候や時間帯に関する配慮)などの遵守に努め住民の健康に被害を及ぼすことのないように最大限配慮するようにしてください。